



Re²:考えてみてください なぜあいさつは大切なのか

パナソニック（当時はナショナル）は、電機・電器製品を製作する日本を代表する会社の一つです。テレビのCMで、みなさんも会社の名前を聞いたことがあると思います。

今は分かりませんが、パナソニックの入社試験では、こんなことを行っていたそうです。高校入試と同じように、入社試験にも面接試験があります。面接会場の部屋の前で、数人のグループごとに、並んだ椅子に座って待っています。すると突然、会社の人が出て来て、「急に面接場所が変更になりました。お手数ですが、新しい部屋にご案内しますので、後についてきてください」と言います。当然、受験生たちは黙って、その人の後について行って、新しい部屋の前に並べられた椅子に順番に座っていきます。実は、この面接場所の変更が、試験だったのです。

日本を代表する大企業の入社試験を受ける人たちです。ほとんどの受験生が、質問されることを予想して、どう答えるか、時間をかけて練習しています。自分の学校の先輩たちからも、過去にどんな質問をされたか情報を仕入れています。面接官が感心させられるような立派な受け答えをする人も少なくありません。しかし、この面接でどんなにすばらしい答えを言っても、合格できないのです。面接場所が変更になって、案内をしてくれた人に「ありがとうございました」と言えなかった人は、すでに不合格になっていたのです。

なぜあいさつをするのか？ なぜあいさつは大切なのか？ 「あいさつ」を漢字で書くと「挨拶」となります。「挨」には、「押し開く、互いに心を開いて近づく」という意味があります。また、「拶」には、「迫る、すり寄る」という意味があり、あいさつとは、「出会った人が互いに心を開いて、お互いを認め合い、お互いのおかげで生きていることを感謝すること」なのです。つまり、「あなたと私は、この世界で同じ時間を一緒に過ごす大切な関係」であり、「あなたは、私にとって大切な人ですと伝えること」なのです。実は、こんなに深い意味があったのです。

昨年度の「希望が丘」No.16で、みなさんが「あいさつ」について、自分なりに考えるきっかけとして、なぜ「あいさつ」大切なのかについて、私の意見を3つ書きました。

- 1 あいさつをされる人、あいさつをする人、両方とも気持ちがよくなるから
あいさつする方もされるほうも気持ちがよくなるのです。自分が気持ちのよいあいさつをして、相手から気持ちのよいあいさつが返ってきたとき、何とも言えないよい気分になった経験は誰にもあるはずです。
- 2 印象がよくなり、人間関係がうまくいくから
あいさつをされる人、あいさつをする人、両方とも気持ちがよくなるのだから、当然、相手はよい印象をもってくれます。あいさつを続けていると、人間関係もうまくいき、トラブルが少なくなります。そして、あいさつがきちんとできる人は、周囲の人からの信頼を得ることができます。
- 3 社会全体が実行しているルールだから
社会生活を営んでいくためにマナーとか常識として、世界中であいさつが行われています。あいさつができない人は、社会や所属集団から受け入れられないこともあります。学校でも先生方からよく指導をされていますが、あいさつは「相手に伝わる声の大きさで」「相手の目を見て」しなければ、伝わらないのです。せっかくあいさつをしても、声が小さくて相手に伝わらなければ、しなかったのと同じになることもあるのです。また、相手の目を見ずにしても、あいさつしようとしたあなたの気持ちは伝わらないことが多いのです。

なぜあいさつは大切なのか、しなければいけないのか？ 一方的に押しつけられるだけで、自分なりに考えてみないと、「先生が見ていないところではやらない」「恥ずかしい」「めんどくさい」となってしまいます。あいさつが大切だと思うその心が大切なのです。「あいさつって大切だよな～」と思う心をもっていれば、あいさつができなくなることはないはずですよ。